

虐待防止のための指針

特別養護老人ホームなごみ苑

1 虐待防止の基本姿勢

利用者の尊厳を保持するため、いかなる時も利用者に対して虐待を行ってはならない。そのため、当施設の基本的な考え方として、この指針を定め、職員が高齢者虐待について理解し、虐待を未然に防ぐ方策を共有する。

2 虐待の定義

(1) 身体的虐待

利用者の身体に外傷が生じ、または生じるおそれのある暴力を加えること、また正当な理由もなく身体を拘束すること。

(2) 介護放棄

意図的、結果的であるかを問わず、行うべきサービス提供を放棄または放任し、利用者の生活環境や、身体・精神状態を悪化させること。

(3) 心理的虐待

利用者に対する著しい暴言、または著しく拒絶的な対応、その他の利用者に対する心理的外傷を与える行動を行うこと。

(4) 性的虐待

利用者にワイセツな行為をすること、または利用者にワイセツな行為をさせること。

(5) 経済的虐待

契約者の同意なしに金銭を使用する、または契約者が希望する金銭の使用を理由なく制限すること。

3 虐待・不適切なケアの未然防止の取り組み

当施設の職員は、虐待・不適切なケアを未然に防ぐために以下の取り組みを実施する。

(1) 事故や苦情の詳細な分析と再発防止に関する取り組み。

(2) 提供する介護サービスの点検と、虐待に繋がりがかねない不適切なケアの改善による介護の質を高めるための取り組み。

(3) 施設職員が一体となって権利擁護や虐待防止の意識の醸成と、認知症ケア等に対する理解を高める研修の実施・教育等の取り組み。

(4) 指針及びチェックリストの定期的な見直しと周知。

4 虐待発生時の対応

(1) 虐待の発見及び通報

- ① 職員は利用者、契約者または職員から虐待の通報があった場合は、本指針に沿って対応する。
- ② 利用者に対して虐待等が疑われる場合は、施設長に速やかに報告するとともに、施設長は保険者と隠岐の島町に報告し、速やかに解決に繋げる。
- ③ 短期入所利用者については、上記の対応に加えて、居宅担当ケアマネにも報告をする。

(2) 虐待に対する職員の責務

- ① 施設内における高齢者虐待は、外部から把握しにくいことが特徴であることを認識し、職員は日頃から虐待の早期発見に努めなければならない。
- ② 虐待防止検討委員会は、施設内において虐待を受けたと思われる利用者を発見した場合、速やかに施設長へ報告する。施設長は、虐待防止検討委員会を開催し、速やかに保険者と隠岐の島町に通報しなければならない。

5 施設長と虐待防止検討委員会の責務・構成

(1) 施設長の責務

- ① 虐待内容及び原因の解決策の責務
- ② 虐待防止のため当事者との話し合い
- ③ 虐待防止に関する一連の責任者

(2) 虐待防止検討委員会の責務

- ① 利用者からの虐待通報受付
- ② 職員からの虐待通報受付
- ③ 虐待内容と契約者の意向の確認と記録
- ④ 虐待内容の施設長への報告

(3) 虐待防止検討委員会の構成

虐待防止検討委員会は、リスクマネジメント委員会と一体的に開催するものとし、委員の構成は次のとおりとする。

- ① 施設長
- ② 生活相談員
- ③ 介護員
- ④ 看護師
- ⑤ その他（必要に応じて若干名）

6 虐待防止チェックリスト、職員セルフチェックリストについて

初心に戻り、職員自身のケアを見つめ直すために、定期的に自らの行動を確認する。集計は、虐待防止検討委員会に取りまとめ、委員会で報告する。

7 当該指針の閲覧について

この指針は、施設のホームページに掲載し、広く施設内外の閲覧に供するものとする。

この指針は、令和4年4月1日から施行する。